

## 第6学年 社会科実践事例モデル (在籍学級)

### (1) 単元名 「源頼朝と鎌倉幕府」

### (2) 対象児童の状況

対象児童	母語 (出身国)	日本語習得状況と学校生活の様子	社会科に関する力
A	スペイン語 (ペルー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常会話には困らない。</li> <li>・5年生のときに一時帰国。その後、学校に来づらいう状態が続く。学習に対して意欲がない。</li> <li>・6年生の5月から算数を国際教室で学習することになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習であれば、歴史上の人物の写真や絵から、何時代のどんな人物で、何をしたかなどはだいたい理解している。</li> </ul>
B	ポルトガル語 (ブラジル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常会話は、ほぼ身につけているが、言葉の意味がわからず、質問してくることもある。</li> <li>・国語と算数を国際教室で学習している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史用語などの理解は難しい。</li> <li>・漢字を使用してワークシートにまとめることや自分の気持ち、考えをまとめることが難しい。</li> </ul>

### (3) 単元の指導方針

#### 《単元について》

本単元は、日本における「中世」といわれる「鎌倉」と「室町」の2つの時代を中心に扱う。この時代の学習のねらいとして、武士勢力が、それまでの貴族勢力に取って代わる背景から、東国を中心に本格的な武士政権を樹立し、武家社会を展開していった過程を理解すること、そして、諸産業が発達し、民衆の成長とともに武士や民衆が中心となる活力ある文化が室町時代に展開され、今のくらしのなかに受け継がれていることを理解するという2つが挙げられる。

まず、単元の導入で、地方の豪族・農民に着目させ、武士の起こりについて理解を深めたい。そして、源平合戦や鎌倉幕府の成立、元との戦い、鎌倉幕府の崩壊と学習していくことで、武士による政治が始まった世の中の様子を考えさせたい。

鎌倉政権は、荘園・公領という古代の国家機構を受け継いでいる一方で、領地を媒介とした主従関係（御恩と奉公）を通して成り立っていた封建社会である。武士がその起こりから持つ、土地（領地）への重要性や領地のために命をかけて戦う執着性を子どもたちに気づかせることで、その後の「安桃山時代」、「江戸時代」の学習に見通しをもてるようにしたい。

### (4) 単元の目標

- ・源氏と平氏の戦いについて調べ、貴族に代わって武士が力をもつようになってきたことを捉える。
- ・資料をもとにして、源頼朝が鎌倉に幕府を開いたわけを理解する。
- ・守護・地頭の設置や承久の乱などを経て、幕府の支配が次第に全国に広まったことを理解し、武家政権の特色を考える。
- ・元との戦いの様子について、絵図や資料をもとに考え、この戦いが、鎌倉幕府の力を弱める要因になったと考えることができる。

#### 新出歴史用語

・武芸・武士・源氏・平氏・平清盛・源頼朝・鎌倉幕府・御家人・守護・地頭・征夷大將軍（將軍）・領地・御恩・奉公・執権・北条政子・モンゴル・元・北条時宗・元寇・てつほう・石塁・土塁・足利氏・室町幕府・室町文化・足利義満・大名・明・金閣・武家造・足利義政・銀閣・書院造・応仁の乱・生け花・水墨画・雪舟・石庭・茶の湯・能・狂言・おとぎ話・二毛作・一揆

**(5) 単元の指導 (全9時)**

時	学習活動	教師の働きかけ (発問○) 日本語表現の支援 (●)	指導上の工夫・留意点 (板書・ワークシート等)
1	武士の起こりについて知る。	○武士に対して、どんなイメージをもっていますか。 ○武士の始まりは何でしたか。	・貴族の安全を武力で守っていた人々が武士の始まり。 ・武器を持って土地を守る地方の有力な豪族、農民が結びついたことが武士の始まり。
2	武士の屋敷や人々の様子、生活について知る。	○武士の館と貴族の屋敷を比べてみましょう。 ○二つを比べると、どんなところにちがいがありますか。	・武士たちは自分たちの土地を守ることに命をかけていた。 ・武士にとって一番大事なものは領地。
3	初めて武士として平氏が力をもって政治を行ったことを理解する。	○なぜ、平清盛は、大きな力を持つことができたのでしょうか。 ○貴族や平氏以外の武士は、平氏に対して、どんな思いを持ったのでしょうか。	・平清盛は、藤原道長と同じような方法で大きな力を手に入れた。 ・平氏の政治は、貴族と変わらなかった。 ・貴族やほかの武士は、大きな不満をもった。
4	平氏打倒に立ち上がった源頼朝と平氏の戦いを理解する。	○なぜ、一度は平清盛に敗れた源頼朝が平氏を滅ぼすことができたのでしょうか。	・源頼朝は、平氏に不満を持つ武士たちを味方につけて平氏を滅ぼすことができた。 ・源頼朝は鎌倉に幕府を開いた。

**本時の目標****① 社会科の目標**

◎源頼朝が、鎌倉に幕府を開いた理由がわかる。

**② 日本語の目標**

◎源頼朝が、鎌倉に幕府を開いたわけを説明することができる。

・鎌倉は、京都から遠く離れている。だから、朝廷の力がとどきにくい。

5

・前時の復習をする

・課題を読む。(一斉)

課題提示 (2分)

源頼朝が、鎌倉に幕府を開いたわけを考えよう。

**学び合い① (10分)**

- ・京都と鎌倉の距離が遠い。
- ・朝廷から遠い。
- ・好き勝手できる。

- 今日は、なぜ源頼朝が鎌倉に幕府を開いたのかを考えます。
- 資料1からわかったことはどんなことですか。
- なぜ京都から遠いのですか。

- ・京都と鎌倉の位置関係についての気づきは発見できると

<ul style="list-style-type: none"> <li>・東側に源氏の領地が多い。</li> <li>・東側に源氏の仲間が多い。</li> <li>・東側に味方が多い。</li> </ul>	<p>○東国は頼朝にとって、どんな土地だったのでしょうか。</p> <p>○味方が多いといいことはどんなことですか。</p>	<p>予想する。位置関係のみに子どもの考えがとどまるようであれば、補助発問をして、なぜ遠くにしたのか理解を深められるようにする。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書き込む。</li> </ul>	<p><b>まとめ① (4分)</b></p>		
<p>①鎌倉は京都から遠く離れている。だから、朝廷の力がとどきにくい。</p> <p>②鎌倉は、日本の東側にある。日本の東側には、源氏の仲間が多い。</p>			
<p>自力解決 (6分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに自分の考えを書き込む。</li> </ul> <p>学び合い② (8分)</p>	<p>○①、②から、鎌倉に幕府を開いたのですね。鎌倉がどんな土地なのか考えていきましょう。</p> <p>○資料②を見て、鎌倉がどんな土地なのか考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉に幕府が開かれた理由①②をワークシートにかかせる</li> <li>・机間指導を行い、考えを持っていない子どもにヒントを与える。</li> <li>・切通しの写真から、人が通りにくい、険しい道しかないことを気づかせる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書き込む。</li> </ul>	<p><b>まとめ② (4分)</b></p>		
<p>③鎌倉は、海や山に囲まれている。だから、敵に攻め込まれにくい。</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業の感想を書く。</li> </ul>	<p><b>今日の授業の感想 (5分)</b></p>		
<p>6</p>	<p>鎌倉幕府の封建社会制度について理解する。</p>	<p>○源頼朝は、どのようにして、武士から信頼を得て、政治を行ったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・源頼朝は、御恩（領地をあたえること）と奉公（いざ鎌倉）という強い結びつきを元に武士の信頼を得て政治を行った。</li> </ul>
<p>7</p>	<p>元との戦いが、鎌倉幕府の力を弱めた要因になったことを理解する。</p>	<p>○元と戦ったあとに、鎌倉幕府はどうなったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉幕府は二度の元との戦いに勝利したが、褒美の領地を武士に与えることができなかった。</li> <li>・御恩と奉公の関係が崩れ、幕府は武士を治めることができなくなった。</li> </ul>
<p>8</p>	<p>武士の世の中から、新しい文化が生まれたことを知る。</p>	<p>○武士が生み出した文化について調べましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武士たちは貴族とは違った文化を生み出した。</li> </ul>
<p>9</p>	<p>室町時代に生まれた文化と、今の生活とのつながりに気づく。</p>	<p>○書院造のほかに、どんな文化が今の生活に伝わっているのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町時代に生まれた、茶の湯、生け花、祭りなどの文化が、今に伝わっている。</li> </ul>

**(6) 板書及びワークシート・配付資料**

**課題** 源頼朝が、鎌倉に幕府を開いたわけを考えよう。

**資料1**

平氏と源氏の勢力図  
京都・鎌倉の位置関係図

- ・京都と鎌倉の距離が遠い。
- ・朝廷から遠い。
- ・好き勝手できる。
- ・東側に源氏の領地が多い。
- ・東側に源氏の仲間が多い。
- ・東側に味方が多い。

切通し  
の写真

資料2  
鎌倉の地形図

切通し  
の写真

切通し  
の写真

切通し  
の写真

まとめ

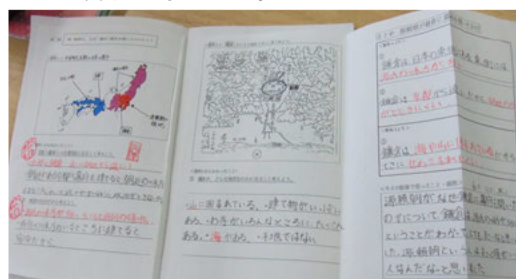
◎源頼朝が、鎌倉に幕府を開いたわけ

- ・鎌倉は、京都から遠く離れている。だから、朝廷の力がとどきにくい。
- ・鎌倉は、日本の東側にある。日本の東側には、源氏の仲間が多い。
- ・鎌倉は、海や山に囲まれている。だから、敵に攻め込まれにくい。

## ☆板書



## ☆ワークシート

**(7) 単元を通じての成果と課題**

## ○成果

- ・教師の発問、発言に無駄をなくし、学習内容の焦点がはっきりするように心がけ授業を展開することができた。
- ・メリハリのある板書がとてもわかりやすかった。板書が、左から右、上から下に流れていることで、授業の流れが一目でわかる授業になった。
- ・子どもたちの思考の根拠となる資料を明確に提示し、板書とワークシートを一致させ、シンプルにすることで重要ところがわかりやすくなった。
- ・適切な課題設定と豊富な資料による情意支援・視覚支援を行うことができた。

## ●課題

**新出歴史用語**の扱いについて

- ・単元の計画の中で、指導案の日本語表現の支援の枠の中に、その時間で扱う歴史用語を明記するとよい。前時までの学習も含めて、同じ用語が何回出てきているかよくわかるようにしておくとうい。
- ・子どもたちにとって、記憶支援、情意支援となるように、歴史用語で漢字を覚えるような学習も取り入れてもよい。今習っている言葉（漢字）がわからないから、わかりたいという必然性のある漢字練習が有効である。
- ・外国につながる子どもには、好きな教科から語彙を増やす、きっかけのようなものを見つけるとよい。
- ・子どもが自分の言葉で学習内容をまとめることができるように、ヒントとなる表現支援を提示しておく。